



(参考) H26年3月⇔H25年3月の差異

H26年3/1現在	* 年齢不詳を除く						
	人口	年少人口 0-14歳	構成 %	生産年齢人口 15-64歳	構成 %	老年人口 65-歳	構成 %
全会津	280,228	34,258	12.3	157,082	56.3	87,795	31.5
会津管内	252,163	31,183	12.4	142,781	56.9	77,118	30.7
内、会津若松市	123,277	16,214	13.3	72,894	59.6	33,228	27.2
南会津管内	28,065	3,075	11.0	14,301	51.0	10,677	38.1

検算  
279,135  
251,082  
122,336  
28,053

H25年3/1現在	* 年齢不詳を除く						
	人口	年少人口 0-14歳	構成 %	生産年齢人口 15-64歳	構成 %	老年人口 65-歳	構成 %
全会津	284,099	35,198	12.4	160,765	56.8	87,043	30.8
会津管内	255,418	31,992	12.6	145,983	57.4	76,362	30.0
内、会津若松市	124,325	16,622	13.5	74,144	60.1	32,618	26.4
南会津管内	28,681	3,206	11.2	14,782	51.6	10,681	37.3

検算  
283,006  
254,337  
123,384  
28,669

本市の生産年齢人口  
H25→H26

△1,250

業種	生産工程労務職（会津若松管		
	H22年 4月→リーマン ショック（H 20）後	H24年 4月→震災 1年後	H26年 4月
求人数	399	498	315
求職数	2,377	1,140	475
倍率	0.17	0.44	0.66

point

生産工程労務職における求人数は、リーマンショック後の大幅に減少したが、その後は300人~500人弱の推移となっている。

しかし、求職者数は、H22年→H24、H24→H26の期間ごとに半減してきており、生産工程労務職を求める人材が、管内の他業種への就業ではなく、他地域への就業先を求めて流出していることが伺える。これが、生産年齢人口の減少（流出）の一因になっていると思慮される。